

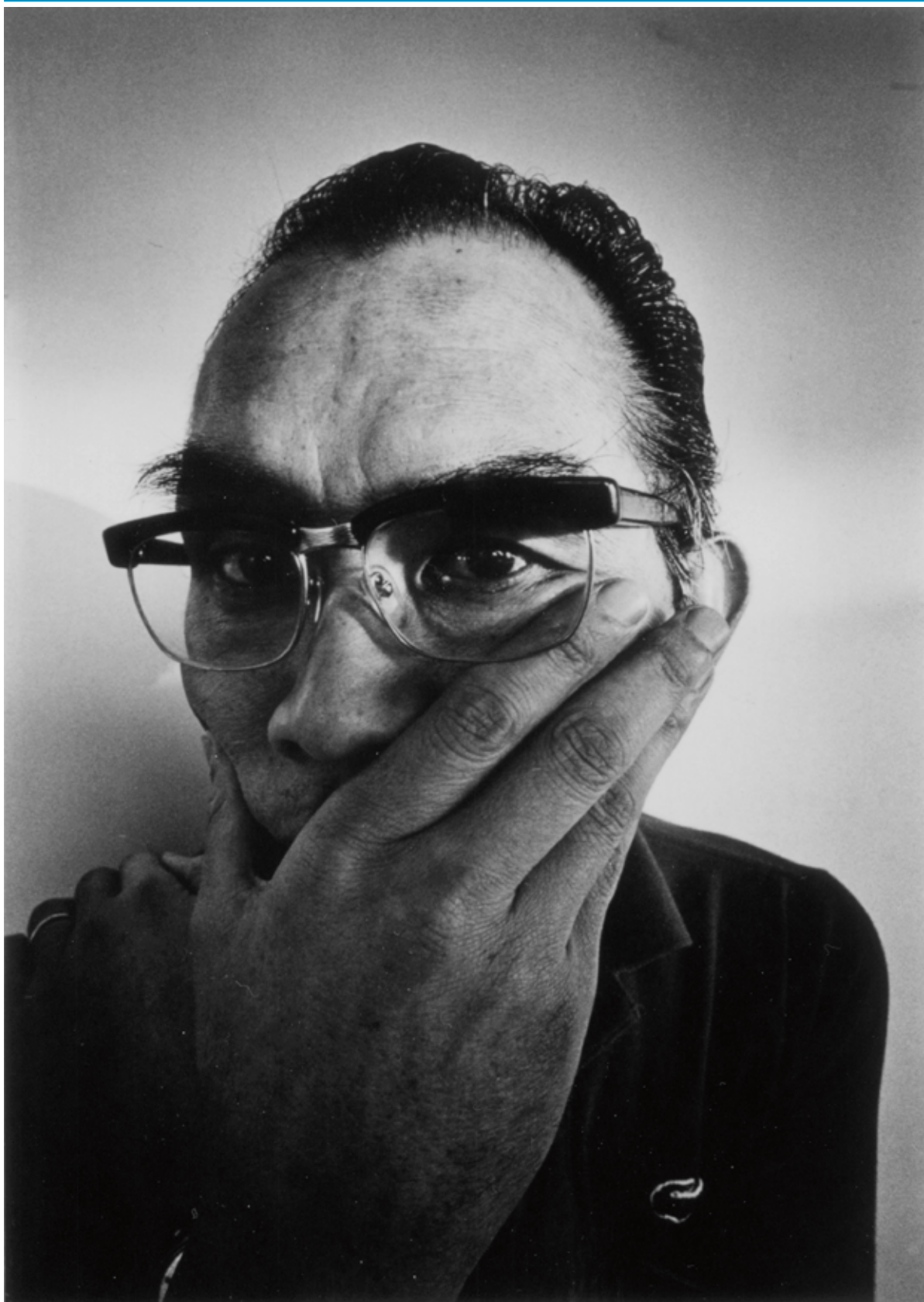
ISHIMOTO YASUHIRO CENTENNIAL

《セルフ・ポートレート》1975年 | 高知県立美術館蔵 | © 高知県, 石元泰博フォトセンター

生誕
100年

石元泰博写真展

揺るぎない、
孤高の眼差し。



主催 高知県立美術館、読売新聞社、美術館連絡協議会、RKC高知放送
協賛 ライオン、大日本印刷、損保ジャパン
助成 芸術文化振興基金
後援 高知県教育委員会、高知市教育委員会、土佐市、土佐市教育委員会、
KCB高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティFM放送
共同企画 東京都写真美術館、東京オペラシティ・アートギャラリー

2021(令和3)年1月16日^土—3月14日^日

会期中無休
開館時間 9:00-17:00 (入場は16:30まで)

高知県立美術館
THE MUSEUM OF ART, KOCHI
781-8123 高知市高須353-2 Tel. 088-866-8000 moak.jp



観覧料 一般前売 720円、一般当日 900(720)円、大学生 650(520)円、高校生以下無料
前売券販売 〓 ローソンチケット(Lコード 62257)

※()内は20名以上の団体割引料金。 ※年間観覧券所持者は無料。 ※身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、及び被爆者健康手帳所持者とその介護者(1名)、高知県及び高知市の長寿手帳所持者は無料。

itypc.moak.jp

——写真を撮ることは生やさしいものではない。

石元泰博(1921-2012)は、対象の本質を掴み取る透徹した眼差しと、厳格な画面構成が際立つ作品によって、国内外で高い評価を受けている高知ゆかりの写真家です。

農業移民の子として米国サンフランシスコに生まれ、少年時代を高知県高岡郡(現・土佐市)で過ごした石元は、戦後シカゴの通称「ニュー・バウハウス」で先端的なモダンデザインの教育を受け、石元作品の根底を成す造形感覚を磨きました。その後は東京を拠点に活躍し、戦後日本において、写真界のみならず、美術、デザイン、建築にわたる芸術界全般に大きなインパクトを与えました。

日本の伝統建築にモダニズムを見出した代表作〈桂離宮〉をはじめとして、都市とそこに生きる人々を見つめた〈シカゴ〉〈東京〉シリーズ、丹下健三、磯崎新ら名だたる建築家たちの作品を撮影した建築写真、同時代の著名人らを個性豊かに捉えたポートレート、密教の世界を精緻に写しとった〈阿界曼荼羅〉、無常のモチーフに自らの死生観を託した〈刻〉、そしてまばゆい色彩に満ちた〈多重露光〉のカラー作品など、その生涯で手掛けた仕事は実に多彩です。

高知県立美術館は、石元の約3万5千枚の写真プリント、15万枚を超えるフィルム等の作品、資料を収蔵しています。生誕100年を記念した東京都写真美術館、東京オペラシティアートギャラリーとの3館共同企画の集大成として開催される本展では、この世界最大の石元コレクションを中心に、半世紀を超える写真家の軌跡を網羅的に回顧し、その色褪せない魅力に迫ります。

生誕100年 石元泰博写真展

ISHIMOTO YASUHIRO CENTENNIAL

2021.1.16(土曜日)―3.14(日曜日)



1



4



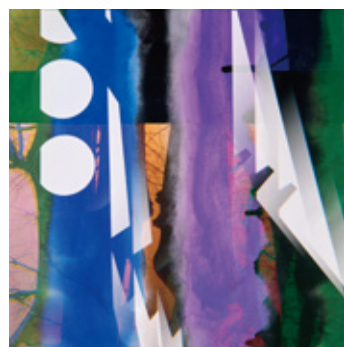
5



2



3



6

1 《シカゴ街》1959-61年

2 《桂離宮 御輿寄から月波楼への飛石道》1953, 54年

3 《落ち葉》1987年

4 《東京街》1950-60年代頃

5 《シカゴ ハロウィン》1948-52年

6 《色とかたち》1990年代後半-2008年

すべて高知県立美術館蔵 © 高知県, 石元泰博フォトセンター

関連企画

プレ講演会「石元泰博の写真、その深さと広さ」

高知県立美術館×高知 蔦屋書店×地域文化計画

講師：福士理 (東京オペラシティアートギャラリー シニア・キュレーター/石元泰博写真展共同企画者)

日時：2021年1月12日(火)19:00- 聴講無料

場所：高知 蔦屋書店 2階 (高知市南御座6-10) 定員：20名

申込方法：「石元泰博写真展トーク申込」の件名で、本文にお名前と人数をご記入のうえ、地域文化計画のアドレス (event@opalh.jp) までお申し込みください。

映画上映会「ニュー・バウハウス」

2019年/アメリカ/89分 | 監督：アリサ・ナーミアス

出演：ラーズロー・モホイ＝ナジ、シビル・モホイ＝ナジ、ハトッラ・モホイ＝ナジ、

オラファー・エリアソン、ハンス・ウルリッヒ・オプリスト、バーバラ・カステン

日時：2021年1月22日(金) ①10:30- / ②13:30- / ③19:30- ※開場は各30分前

場所：美術館ホール

入場料：1,000円 *当日券のみ、予約不要。観覧会半券をお持ちの方は500円に割引。

ハンガリー出身の芸術家ラーズロー・モホイ＝ナジ(1895-1946)の、シカゴでのニュー・バウハウス校長時代を中心としたドキュメンタリー。

石元泰博がニュー・バウハウス在学中に学友マーヴィン・E・ニューマンと制作した短編映画「ザ・チャーチ・オン・マックスウェル・ストリート」(約8分、16mm、1951年)もフィルムにて同時上映します。

サタデー・レクチャー「石元泰博のシカゴ時代」

講師：朝倉芽生(当館学芸員)

日時：2021年2月27日(土) 14:00- 聴講無料、予約不要 定員：20名

場所：1階 講義室

生誕100年 石元泰博写真展 対談シリーズ

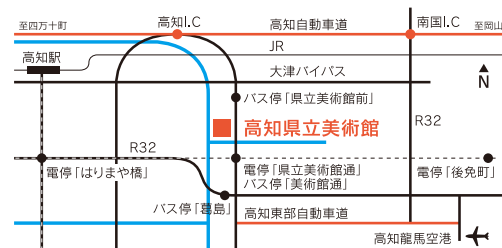
YouTube にて動画公開中!

写真家・石元泰博と出合い、関わり、共鳴したさまざまな人々が『石元泰博—写真という思考』著者・森山明子氏(武蔵野美術大学教授)と語ります。



新型コロナウイルス感染症対策実施中のため、イベント等は変更となる場合がございます。最新情報は高知県立美術館WEBサイトをご確認ください。

新型コロナウイルス感染拡大防止のためご協力をお願いいたします
マスクの着用/適切な距離を保っての鑑賞/手指のアルコール消毒



【交通のご案内】

○「はりまや橋」からとさでん交通路面電車「ごめん」、「領石通」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館通」下車徒歩5分○とさでん交通バス「医大病院線」・「美術館前」下車徒歩5分○とさでん交通バス「高知医療センター・高知県立大学・望海ヶ丘線」・「県立美術館通」下車徒歩5分○高知龍馬空港からは、高知市内一空港間を結ぶとさでん交通の空港連絡バスをご利用いただけます。バス停「葛島」で下車徒歩約16分○車・タクシーをご利用の場合はJR高知駅から約20分、高知龍馬空港から30分、高知自動車道南国インターから15分、高知インターから10分。